

単収・食味UP運動展開中！！

～ 米生産技術の基本に立ち返りましょう ～

天候に応じた温度・水管理により、健苗育成に努めるとともに、計画的に作業を行い、適期の田植えを目指しましょう。植付株数（60～70株）を確保しましょう。

今月のポイント

- ①健苗育成：育苗期間中の温度管理を徹底しましょう。
- ②田植え：適切な植付本数と栽植密度を守り、暖かい日に田植えを行いましょう。
- ③除草剤：一発除草剤は使用方法に基づき、早めに散布しましょう。
- ④病害虫対策：早期草刈りにより、心化世代発生密度を低減させましょう。

【令和5年産米の育苗管理・本田準備・田植え等期間の反省点】

・育苗器から出してハウス内に並べて被覆資材をかけていた、数日後被覆資材を取ったら苗が焼けていた（高温障害）ハウスをあまり開けていなかった。

→ハウスの開閉をして育苗箱の温度が25℃を超えないように温度調整を行いましょう。ハウス内は、日差しが入ると短時間でも温度が急激に上がります。特に、ビニールが新しいハウスは温度が上がりやすいので注意が必要です。

この時期の昨年の反省をもう一度振り返りましょう。

4月の気候の特徴

4月の気候は、冬の寒気が北上し、南に控えていた暖気が日本付近にやって来ます。寒気と暖気の境が偏西風となり、その流れの中に低気圧と移動性高気圧が発生、天気の数日おきに目まぐるしく変化します。

寒暖の差が大きく、風の強い日もありますが、天気予報をこまめに確認してハウス内の温度管理を心がけましょう！！

1. 健苗育成



今年も細菌病の発生が心配されています。

育苗中の高温(30℃を超える)は細菌病の発生を助長させますので、適正な温度管理を厳守しましょう！

注意！

特別栽培米では育苗期間中に使用できる農薬はありません。

タフブロックの成分が死滅するため、ダコニールは使用しないでください。

～ポイント①：育苗期間中の温度管理を徹底しましょう。～

1. 育苗期間中の温度管理（温度計は必ず苗箱の近くに設置しましょう）

- ①日中は25℃以下にし、夜間は5℃以上にしましょう。
- ②日中と夜間の温度差が、20℃以上にならないように注意しましょう。

2. 水管理

1) 慣行育苗（過湿と過乾燥に注意！！）

- ①灌水は天候と床土の乾き具合によって行い、遅くとも朝の8時頃にかけ終わって下さい。
- ②灌水は1日の必要量を、床土にしみわたるようにたっぷりと灌水しましょう。また、雨天時は灌水しないようにしましょう。
- ③夕方、乾燥状態の場合は、翌朝になってから十分に灌水しましょう。

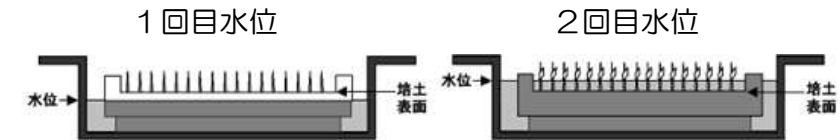
2) プール育苗

- ①入水するまでは、慣行育苗と同じ管理ですが、水のかけ過ぎによる過湿状態に注意しましょう。
 - ②入水のタイミングは、1回目は緑化終了後2～3日以内、2回目は全体が出芽し第1葉展開後（第2葉出始め頃）からとなります。
※生育にムラがある場合は無理に入水せず生育が揃ってから入水しましょう。
 - ③1回目の水位は、育苗箱の半分くらいの高さまでが目安となります。2回目以降の水位は覆土表面が隠れる程度の深さとし、その後は水位が下がったら入水をする繰り返しの管理となります。
※水が少ない状態が続くと、低温・過湿的な条件となり、病害が発生する恐れがあります。
 - ④入水後は昼夜ともハウスサイドを開放が基本（低温時5℃以下は閉める）。→ 苗の徒長防止
 - ⑤ハウス内温度・プール水温ともに25℃以下が基本となります。
※プール水温が25℃を超えるような場合は水の入れ替えを行いましょう。
- 育苗期には、ケルパック66やプリスクワンを活用し健苗育成に努めましょう。

新品のハウスの場合は特に注意！！
・緑化期以降は強風時以外はハウスサイド開放
・強風時は風向きと反対のハウスサイドを開ける



朝や夕方、葉先に一斉に水滴がついていれば苗は健康な生理状態です！



2. 病害の発生環境と主な症状

～こちらの症状が現れた場合、早めに営農アドバイザーにご相談ください～

種類	発生環境	主な症状
白カビ (リゾプス)	出芽期の高温多湿。緑化期頃の低温。育苗期全般を通しての過湿管理。	種子周囲や覆土表面に白色のカビが生じ、出芽・発根を障害する。
ムシ苗	高温後の急激な低温管理。乾燥・多湿管理が繰り返されると発生が多い	第2～3葉期になって急に水分不足の様に萎え、葉身が針状に巻き、褐変枯死する。根の伸長が少なく軽い。
立ち枯れ (ビゾウム)	出芽期から以降、変わりやすい天候の下、低温で生育が停滞気味な場合。	カビはないが芽が腐敗する。または苗が褐変し、のち芯葉が針状に萎ちようする。芯葉を引くと抜けやすい。
ばか苗病	育苗期において高温・多湿な条件下が続くと発生率が高くなる。	第2葉展開期頃からみられ、罹病苗はやや淡く細くなり、草丈は健全苗の2倍以上となる。確認された場合は速やかに抜取りをしハウスから離れた所で焼却するか土中埋没。
細菌病	育苗期、特に催芽・出芽時の高温多湿	新葉の基部が白化し、伸長阻害や褐変枯死となる。場合によっては腐敗臭がし、新葉が抵抗なく抜ける。

ケイ酸資材を施用し、気象変動の影響を受けない稲体をつくり、単収UPを目指しましょう！！

3. 苗作りの目標

	稚 苗	中 苗
育苗日数	20~25 日	35~40 日
葉 数	2.5 葉	3.5 葉

※育苗日数が過ぎた老化苗を使用すると、活着が遅れますので作業計画を見直しましょう。

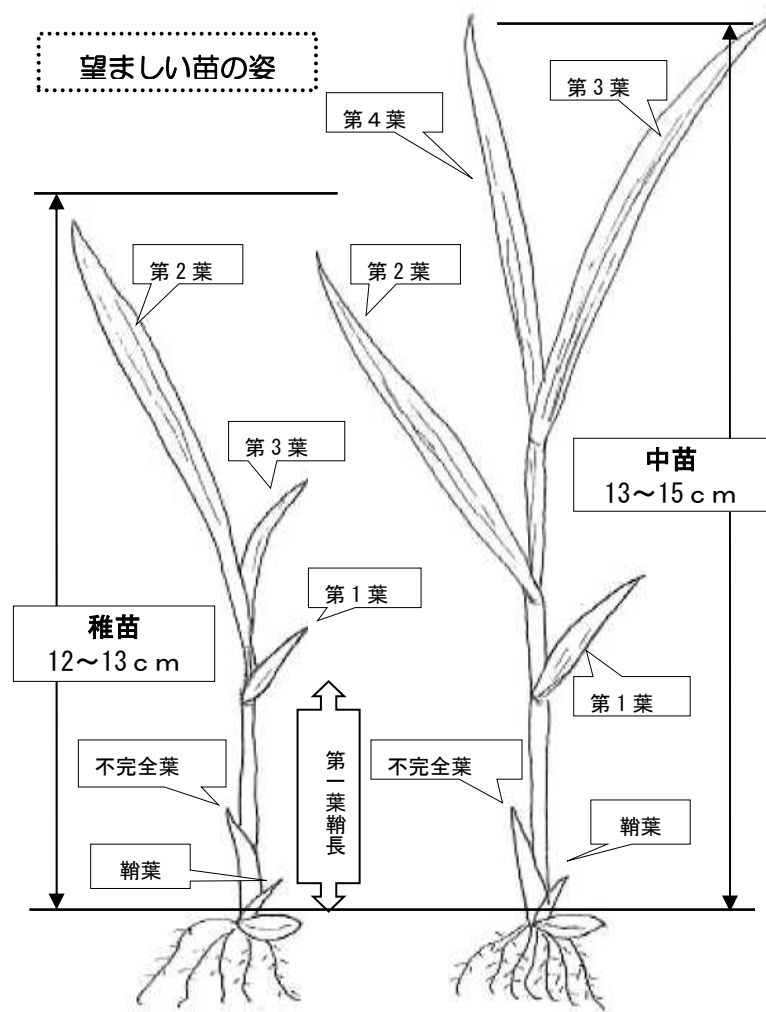
4. 本田の準備

耕起、代かき・均平作業

①耕起：深耕できるように作業前にロータリーの爪等の点検整備をしましょう。

②丁寧な代かき：除草剤の効果維持、肥料の均質化。

※残渣（わら、マイクロプラスチック等）の浮き上がりをおさえるため、土面が7~8割見える状態から作業を始める。練りすぎに注意する。



5. 箱施用剤「スタウトパティート箱粒剤」の散布

⇒除草剤（1^ホ粒剤）との誤使用に注意！（誤使用が毎年報告されています！）

⇒ラベルの確認の励行

- ①箱施用剤は、稚苗・中苗ともに1箱当り50gを均一に散布しましょう。
- ②葉に付着した薬剤は払い落としした後、軽く散水し薬剤を土壌表面に付着させて下さい。
- ③ハウス内で散布する際、振りこぼしに注意しましょう。

※後作として野菜の作付を計画している場合は、ハウス内での散布は行わないでください。こぼれ落ちた農薬成分を野菜が吸収してしまう恐れがあります。



6. 田植え 適期移植を心がけ、初期生育を確保しましょう

～ポイント②：適切な植付本数と栽植密度を守り、暖かい日に田植えを行いましょ。

①田植えは、8月上旬の高温の影響を緩和するため、5月10日~20日頃に行うよう計画しましょう。

②田植えは、代掻き後5日以内に行う事が望ましいです。

※代掻きから田植えまでの期間が長くなるほど、除草剤の散布時期が遅れ、雑草が残る恐れがあります。

③田植えは、寒い日や風雨の強い日避けましょう。

また、移植後はただちに入水しましょう。（初期生育・分けつ遅れは収量に影響します）

④分けつが抑制されることを防ぐため、深植えはしないようにしましょう。

⑤植付株数……坪当り60~70株（大豆作後など、地力が高い圃場は50株）

⑥植付本数……3~4本（冷水が入るほ場、活着が劣る場合は、5~7本）

⑦初期生育が悪い場合には活着肥を使用し、分けつの確保に努めましょう。

複数品種を作付する場合は品種の混同に気を付けましょう。苗をもらった・買ったは要注意です。

7. 移植後の水管理

移植直後は活着の促進と、植え傷みによる葉面からの蒸散を防ぐため、やや深めの水管理（葉先が2~3^ホ水面から出る程度）とします。活着後は、浅水管理により稲の生育を促します。

低温時（気温15℃以下）の時は、深水管理（葉先が出る程度）として下さい。ただし、低温でも日照があり、風の無い日は、日中は浅水管理にしましょう。

8. 除草剤 十分な湛水を行い、防除効果を最大にしましょう。



～ポイント③：一発除草剤は使用方法に基づき、早めに散布しましょう。～

商品名	10 ^ホ 当り使用量	使用時期	
ベッカク	1 ^ホ 粒剤	1kg（1袋）	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで（田植同時処理可能）
	豆つぶ250	250g（1袋）	移植後3日～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで（水口施用可能）
	ジャンボ	250g（25g×10個）	移植後3日～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで

※特別栽培米の一発除草剤は令和6年産から「ベッカク」になります。

- ①漏水田・砂壌土の場合は、粒剤の散布をお勧めします。
 - ②散布の際は5~10^ホ程度の湛水で行い、散布後1週間程度は、農薬が流出しないよう止水とします。
 - ③畦畔からの漏水やオーバーフローのないように水管理には十分注意し、かけ流しをしないようにしましょう。
 - ④豆つぶ250又はジャンボ剤を使用する場合は表土剥離やアオミドロ・藻類の発生により拡散性が悪くなるので、早めの散布を心がけましょう。
 - ⑤散布後は圃場内に踏み入らないようにしましょう。（除草剤の処理層が壊れてしまうため）
- その他の除草剤使用については、「春肥料施肥設計指導会資料予約申込書」を参照ください。



9. 病害虫対策 畦畔等の草刈りを行い、水田にカメムシが寄りにくい環境を作りましょう。

～ポイント④：早期草刈りにより、ふ化世代発生密度を低減させましょう。～

移植前に畦畔、転作雑草、農道等の早期草刈りを実施し、越冬後ふ化するカメムシの発生を抑えましょう。

～令和6年産GAPチェックシートの取り組み（4月編）～

令和5年産のGAPチェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介していきますので、令和6年産ではチェック欄に〇がつくよう取り組んでいきましょう！

また、必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

「（推奨項目）農業機械の管理台帳を持っている」（65.7%）※カッコ内は〇のチェック率
→機械・器具の保守や修理を行ったことを確認できるメモ帳等があれば〇となります。

～お知らせ～

■苗の異常などの相談については

①金ケ崎地域センター営農経済課 43-2771

②営農アドバイザー携帯電話番号 090-4478-9940 ・ 090-4478-9939

090-4478-9911 ・ 090-4478-9907

③休日対応について：4月20日(土)~5月6日(月) 8:30~12:00

※休日は携帯電話へ連絡願います。

■拠点配送センターについて

生産資材・生活資材のご注文・配達は「拠点配送センター」フリーダイヤル：0120-516-911

■資材センターについて

直取り・窓口供給品は「金ケ崎資材センター」で承ります。43-2780

1) 農繁期の4~5月は土日も営業します。（午前8:30~12:00）

2) 金ケ崎資材センター 大型連休の営業について

4/27(土)	4/28(日)	4/29(月)	4/30(火)	5/1(水)	5/2(木)	5/3(金)	5/4(土)	5/5(日)	5/6(月)
午前営業	午前営業	休業	通常営業	通常営業	通常営業	休業	午前営業	休業	休業



←LINEにて営農情報を発信しています！
QRコードを読み取って友達登録をお願いします。

春の農作業安全月間(4/15~6/15)です。安全に作業を行うよう心がけましょう。